

いずみさの昔と今 第339回

「池田谷久吉とその生涯⑤」
池田谷久吉と佐野踊り

歴史館いずみさので昨年10月から1月まで開催されていた秋季企画展「泉佐野の建築家―池田谷久吉とその生涯―」に関連して数回にわたり池田谷久吉の業績などを紹介してきました。最終回となる今回は「池田谷久吉と佐野踊り」について紹介します。

今まで紹介してきたように、池田谷久吉は建築家に限らず様々な分野に精通していました。それは学問のみに留まらず、

芸能の分野にも通じており、鑑賞するだけでなく舞踊の講師を勤めながら自ら新舞踊の構成・演出を手掛けていたそうです。そんな池田谷久吉は、日本舞踊の中でも特に盆踊りについて高く評価しており、昭和7（1932）年に上方郷土研究会が発行した「上方」の20号では、「田園風景の最高峰であり、民衆芸術の代表作である」といつても、過言ではあるまい。」という風に述べています。

また、同書には「佐野踊り」についても述べられており、実際に池田谷久吉が見た当時の風

景や、口説き音頭で三味線や太鼓、胡弓で演奏されることや、舞の心得がなければ踊れないような品のよいふりであったことなど、踊りの特徴などが随所に書かれています。特に、衣装については、池田谷久吉の幼少期には縮緬の友禅の浴衣といった豪華な衣装であったものが時代と共に真岡などの浴衣に変化していったなど当時を知る人でしか書けない「移り変わり」なども書かれています。

そして「上方」の最後には、「こうした伝統を持つ郷土芸能こそ郷土愛を発芽させ、実に尊く意義あるものである。破壊は易いが、建設は難い。私たちは何とかして、この盆踊りを永久に保存と共に完全に発達させなければならぬ。」と述べて締めくくっています。そして、その言葉を体現するように、昭和27（1952）年には「泉佐野踊り保存会」の顧問に就任し、佐野踊りの普及・保存に尽力したのです。

以上、10月から5回に分けて池田谷久吉の業績をみてきまし

た。建築家としての活動だけでなく、郷土史家・考古学者、また、芸能の分野にも精通していた池田谷久吉の知識量の豊富さや止まることの無い知的好奇心を垣間見ることが出来たかと思えます。

3月3日から歴史館いずみさでは、春季企画展「歴史発掘大阪2023」が開催されます。ぜひお立ち寄りください。



▲佐野つばさ通り商店街の佐野踊り (新修泉佐野市史より)

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日 (いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館)
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

日本遺産・葛城修験文化を巡る⑦ ～犬鳴山七宝瀧寺鈴杵ヶ嶽五百弟子受記品～

「日本遺産」に追加認定された「葛城修験 ― 里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介しつづけます。

問合せ先 文化財保護課



山頂の葛城二十八宿第八番経塚

と記されています。経塚の古さでは、阪南市のさくら地蔵に次いで2番目に古いものになります。またこの経塚の前には「経塚」と刻まれた和泉砂岩の石碑、「玉美大神」と刻まれた自然石もあります。

※1月号が⑦となっていました、正しくは⑥でしたので訂正します。